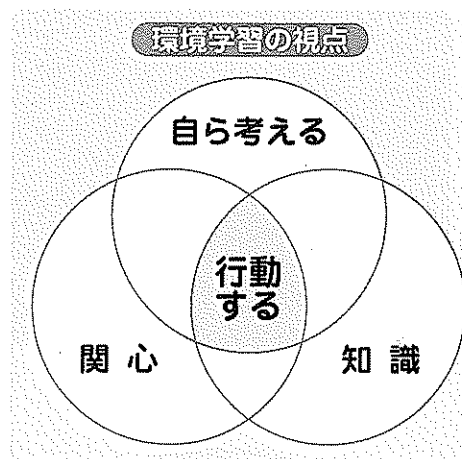


② 環境学習の視点

環境学習は、知識の習得だけで終わるものではありません。「人と環境」の関係について正しい理解をもち、環境問題を自らの問題として主体的に考え、行動することが重要です。また、環境学習は継続して行われる必要があります、学習を通じて、環境への関心が更に高まるものである必要があります。

環境学習を効果的に継続して実施し、環境に配慮した行動につなげていくためには、次の3つの視点が重要です。

- ① 環境への関心を高める
- ② 正しい知識を習得する
- ③ 自ら考える態度を養う



1 「環境への関心を高める」

自然体験等を通して、自然の美しさ、不思議さを感じ、環境に興味を持ち、関心を高めることが、意欲をもって自主的に継続して環境学習を進めるうえで重要な要素となります。

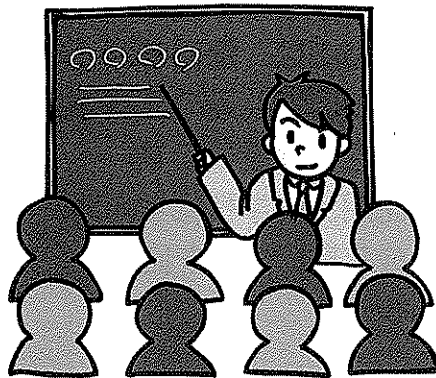
例えば、自然とふれあう、動物や植物を観察する、自然体験学習プログラムを取り入れる、簡易な環境測定を自分で行ってみる、電気の使い方やゴミの出し方を調べるなど、体験を多く取り入れることが望ましいと言えます。



2 「正しい知識を習得する」

行動は正しい知識に基づく必要があります。特に、今日の環境問題は、さまざまな要素が複雑に絡み合っており、これを正しく理解することは容易なことではありません。

そのためには、関係者が連携、協力し、情報の共有化、研さんに努め、学習者の成長段階に対応した、適切な情報が提供できるようにする必要があります。



3 「自ら考える態度を養う」

環境学習を知識の習得だけに終わらせないためには、環境問題を多面的に捉え、自らの問題として認識し、主体的に考える態度を養うことが重要です。

受動的な学習だけでなく、考えるきっかけを提供することが大切であり、簡単な設問やディスカッション、課題の提供等、学習者の成長段階に合った方法で実施されることが必要です。

